

橋木俊明著「安心の社会保障改革 - 福祉思想史と経済学で考える - 」

東洋経済新報社 2010年9月30日刊を読む

グルントヴィ(デンマーク)

1. デンマークを代表する作家、哲学者といえ、童話のアンデルセンと哲学のケルケゴールであることは皆の知るところであるが、国民的詩人としてニコライ・F・S・グルントヴィ(1783 ~ 1872)がいる。牧師として人生を始めてから詩人となり、北欧神話やデンマークの自然・風土を題材として詩作を発表した。一部の作品は賛美歌となり、デンマーク国民に親しまれて歌われるようになり、国民的詩人となったのである。
2. グルントヴィの詩歌のうち、国民に愛唱されている詩の一つが橋本淳編(デンマークの歴史、創元社 1999年刊)に引用されているので、それをここに書いておこう。

「人生は、平凡で楽しく暮らし、働く生活がよい。
このような生活は、王の生活と交換できない。
年老いた者たちと一緒に、素朴で楽しい生活がよい。
王宮の中も、あばら屋の中も、同じように素晴らしい。」

(『国民唱歌集』第17版、463番)

3. この詩の意味するところは、王宮に住む国王も、あばら屋に住む庶民も平等である。ということ唱っているものであり、平等であることの尊さを説いている。さらに、すべての人が平凡ながらも質素に暮らす生活の楽しさがよい、としている。デンマークの精神的支柱、あるいはデンマーク精神の父と呼ばれるグルントヴィの詩によって、国民が平等をいかに大切にしているかを想像できる。後にデンマークは福祉国家の典型国となるが、思想的にはグルントヴィが一つの背景ないし出発点となっているのである。
4. もう一つグルントヴィの貢献として、教育の分野がある。1844年に「国民高等学校」が設立されたが、この学校には語義として「民衆の大学」という意味もあって、公式な学校ではなく私塾に近い。公式な学校による教育が、試験とか資格といったことで出世競争の場になっていることに抗して、誰でも入学できた全寮制の学校であった。勉強だけでなく、お互いが啓発し合うことによって、生きていくための使命を感じる場所が、学校の本来の目的だとした。

5 . この学校で学んだ人々は、農村地帯で有能な人となり、後に農民解放運動の指導者になる人が多かった。農業協同組合の設立に関与する人がいたし、政治的にも左翼的な農民政党を組織して、都市の労働者と組んで時の権力者に対抗する勢力となった。これらの政治勢力は「グルントヴィ派」と呼ばれるようになり、デンマーク政治の世界で一定の役割を演じたことが橋本(1999)でわかる。

P96 ~ 97

[コメント]

人口減少と経済の長期停滞の中、超高齢化社会を既に迎えてしまった日本の社会福祉のありようはどのようなものがよいのか。所得税率 50%、消費税率 25%の重い税負担のもとで高福祉を享受するデンマークの思想的背景を知ることは興味が尽きない。

- 2010年9月9日林 明夫記 -